

P社の第40期損益計算書にもとづく損益分岐点分析 (単位: 百万円)

出所: 本間健也『損益分岐点がわかる本』日本実業出版社、1985年、209-213頁。

			変動費	固定費
売上高	3,001			
棚卸高増減	-4	V	-4	
売上原価	2,379			
材料費	1,639	V	1639	
外注加工費	475	V	475	
労務費	134	F		134
減価償却費	76	F		76
消耗品費	10	V	10	
電力料	11	V	11	
その他の経費	38	F		38
売上総利益	622	—		
販売費および一般管理費	475			
役員報酬	28	F		28
その他の人件費	186	F		186
減価償却費	11	F		11
販売手数料	3	V	3	
発送配達費	44	V	44	
その他の経費	203	F		203
営業純利益	147	—		
営業外収益	27	F		-27
営業外費用	60	F		60
経常利益	114			
			2178	709

人数(平均、人)	89
総資本(平均、百万円)	1,876
総資本経常利益率	6.1%

売上高	3,001	100.0%	
変動費	2,178	72.6%	
限界利益	823	27.4%	
固定費	709	23.6%	
	減価償却費	87	2.9%
	賃金	348	11.6%
	支払利息	58	
	租税公課	43	
	その他の固定費	173	5.8%
利益	114	3.8%	

= 労務費 + 人件費

損益分岐点売上高	2,585	= 固定費 / (1 - (変動費 / 売上高))
損益分岐点比率	86.1%	= 損益分岐点売上高 / 売上高
経営安全率	13.9%	= 1 - 損益分岐点比率

* 経営安全率だけ売上高が減ると、利益は0 (100%減)になる。

◇ 費用 = 固定費 + 変動費 = 固定費 + (変動費 / 売上高) × 実売上高

売上高10%増加のときの利益 =	196.3	増加率 =	72.2%
= (3001 * 1.1) - A24(709 + (2178 / 3001) * (3001 * 1.1))			
売上高が生産能力3420と同じときの利益 =	228.9	増加率 =	100.8%
= 3420 - (709 + (2178 / 3001) * 3420)		売上高利益率 =	6.5%
売上高10%減少のときの利益 =	31.7	増加率 =	-72.2%
= (3001 * 0.9) - (709 + (2178 / 3001) * (3001 * 0.9))		売上高利益率 =	1.2%